民生環境水道常任委員会行政視察報告書

金子裕美

○静岡県藤枝市

健康マイレージをはじめとした『"健康・予防 日本一" ふじえだプロジェクト』の取り組みについて

【所 見】

藤枝市は、平成25年に『健康寿命をのばそう!アワード』で厚生労働省健康局長優良賞を受賞しており、市民が幸せな健康生活を少しでも長く続けられるよう『"健康予防日本一"ふじえだプロジェクト』を実施している。その取り組みは、発症予防・重症化予防・地域保健医療体制による"守る健康"と、豊かなライフスタイルや健康寿命の延伸により命を輝かせる"創る健康"に分かれている。

"守る健康"の成果は、特定健康診査受診率が49.6%(全国平均35.4%)、乳がん検診受診率54.9%(同26.1%)と非常に高く、メタボ率も全国2位の少なさであるなど数字で大きく示すことができる。集団検診の受診券は町内会に配り地区ごとに検診バスが出るため、隣近所誘い合うことで検診率のアップにつながっているほか、開始から50年たつ保健委員の存在も大きい。自治会長・町内会長は充て職で保健委員になるほか、女性保健委員は60~80世帯に1人いるため、保健委員は常時地域に1,000人、経験者を入れると2万人地域の中にいることになる。

"創る健康"の取組は3つある。1つ目は『歩いて健康日本全国バーチャルの旅』で、6.5キロメートルまたは1万歩歩くごとに地図上の丸を塗っていくと、日本橋から三条大橋までの495.5キロメートルの東海道を完歩することができる。そして東海道をクリアすると、奥の細道・四国お遍路・北海道周遊・九州周遊各コースに挑戦ができる。2つ目は『ふじえだ健康スポット20選』で、市内にあるスポットを楽しい・癒し・キレイ・食べる飲む・鍛えるの5つの特徴で評価しながら紹介し、地域の宝を健康づくりにつなげている。3つ目は、『ふじえだ健康マイレージ』で、日々の行動(運動・食事・休養・歯・体重計測)とボーナス(検診受診・禁煙・社会参加)をポイント化し、2週間以上実践して100点たまると協力店で特典が受けられる1年間有効の「ふじのくに健康いきいきカード」をもらうことができ、ふじえだマイレージWebシステムでも参加することができる。

幅広く展開している取り組みであるが、参加者は年配の方が多く、同じ人が毎年参加している傾向にあるため、従業員の健康に取り組む企業と協力したり、若者の参加を促せるよう魅力的な協力店の開拓を今後進めていく予定である。事業

の実施とその評価がしっかりされており、PDCAサイクルもしっかりと機能していた。藤枝市では、健康マイレージのほかに、環境・交通安全・教育マイレージもあり、市民の自発的な取り組みを応援している。

○東京都国分寺市

国分寺市プレイステーションについて 【所 見】





プレイステーションは、国分寺駅から少し離れた、柿の木畑が並ぶ一角にある。 入口を見るだけでワクワクした気持ちになれる。都会の中にある地面、手づくり で人情味あふれる小屋、子供たちの泥だらけの足。ここは誰でも無料でできる冒 険遊び場で、子供たちがやりたい遊びを自分でつくることができ、火の体験・工 作・料理・畑づくりなどができるさまざまな道具の用意もあり、2名常駐してい るプレイリーダーは、遊びの応援・手助けをしている。

年間開所日は272日、利用者は乳幼児から大人まで年間約1万4,500人、委託料は1,200万円で、社会教育課が所管しており、子供たちが生き生きと活動できる環境をしっかりと考えている市と教育委員会の姿勢をうかがうことができる。

委託先の認定NPO法人冒険遊び場の会は、プレイステーションのほかに、子育て中の親子が気軽に立ち寄れる親子ひろば「BOUKENたまご」を受託しており、また、平成29年度の提案型協働事業「こくぶんじ青空ひろば」で市内の9公園へ週に1回プレイリーダーを派遣している。

子供にとって、遊びというのは何よりも大切で、そこから生きることに必要な力を身につけることができる。プレイステーション内にある高い滑り台は簡単に登れないようになっており、登れる力のある子供だけが滑ることができるよう工夫されており、ほかの遊びも含めてプレイステーション内でのけがはほとんどないのだとか。

現代においてはダイナミックに遊べる場所は少ないし、親も「危ないから」と子供の遊びを制限してしまう事も多く、子供の遊びたいように遊ばせられる環境は少なく、冒険遊び場の遊びに対する考えへの理解を得られないこともある。このプレイステーションのように、"遊び"を体験すると同時に、その考えを発信する拠点が常にあることは、子供にとっても親にとっても、そして市にとっても有益である。足利市ではキッズピアや子育て支援センターなど室内遊びの施設は充実しているため、足利の豊かな自然を利用して遊べる環境や遊びに対する考えの発信拠点が必要であると思う。